

## 「(仮称) 山口市人口長期ビジョン」の構成について

### 1 人口の現状分析

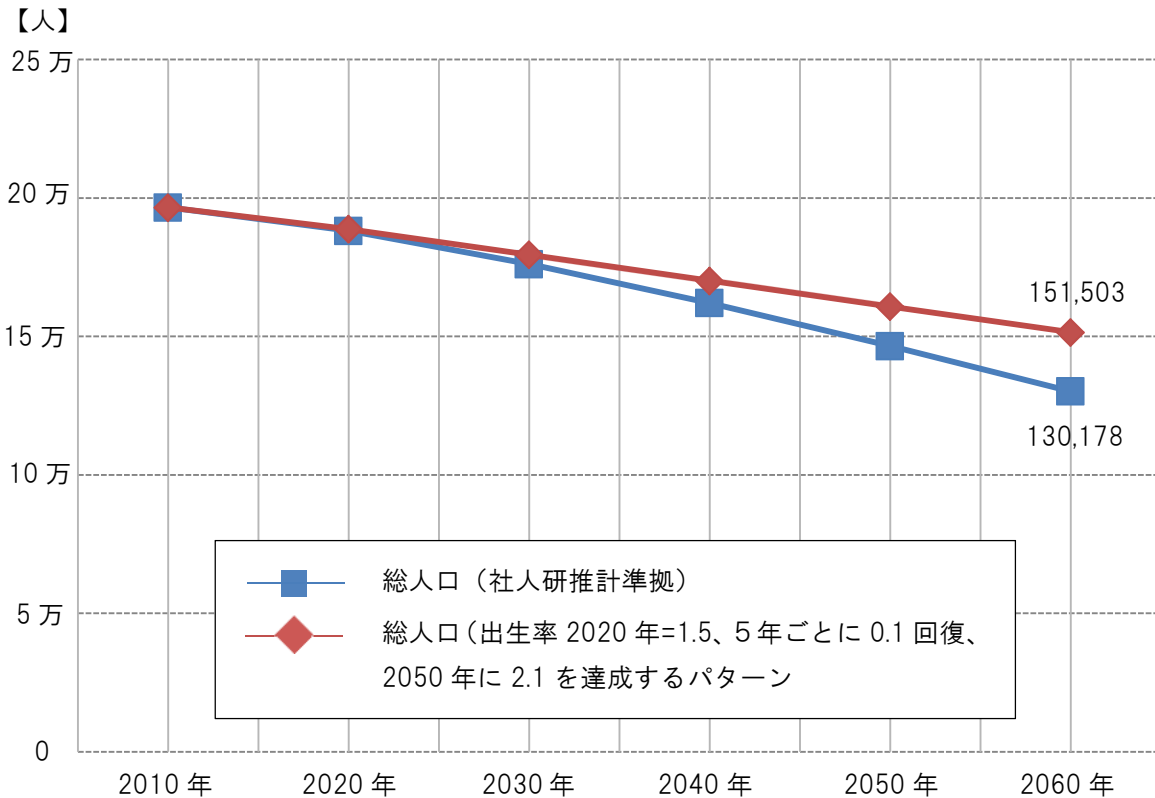
#### ① 人口動向分析

- ・ 総人口、年齢3区分別人口、出生数、転入数等の時系列の状況を分析

#### ② 将来人口の推計と分析

- ・ 出生率や移動率などについて仮定値を変えた総人口の集計
- ・ 将来人口に及ぼす自然増減、社会増減の影響度の分析

#### ■ 総人口の見通し



#### ■ 社人研推計

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
総人口(人)	196,627	188,146	176,145	162,064	146,533	130,178
合計特殊出生率(tfr)	1.46	1.37	1.35	1.35	1.35	1.35

#### ■ 山口市独自推計

	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
総人口：山口市独自推計	196,627	188,789	179,568	170,130	160,832	151,503
合計特殊出生率(tfr)	1.46	1.50	1.70	1.90	2.10	2.10

## 2 人口の変化が山口市の将来に与える影響の分析

- ・小売店など民間利便施設の進出、撤退状況
- ・地域産業における人材の過不足状況
- ・公共施設の維持管理・更新等への影響（財政）
- ・社会保障等の財政需要、税収の増減による財政状況への影響（財政）

## 3 将来展望に必要な調査・分析

- ・市民の結婚・出産・子育てに関する調査
- ・地方移住の希望に関する調査
- ・高校、専門学校、大学等卒業後の地元就職率の動向や進路希望調査
- ・留学生等への調査
- ・近隣市など地域連携に関する調査

## 4 人口の将来展望

※対象期間は、2060年を基本とし、総合戦略の期限である2020年、その後、10年ごとの推計人口を記載していく。

### ① 将来像（2060年を視野に）

（仮称）「山口に住んでみたい、住み続けたい」と実感できる「定住実現都市」  
※現在の総合計画の将来像「ひと、まち、歴史と自然が輝く 交流と創造のまち 山口」を意識し、人口減少に対して正面から向き合う姿勢をわかりやすく示すもの。

### ② 将来に向けた基本的な方向

- （1）出生率の改善、向上
- （2）定住、移住促進（社会増）
- （3）生産年齢人口減少への対応
- （4）人口減少時代にふさわしい都市の基盤、骨格づくり  
（協働によるまちづくり、広域県央中核都市づくり）

### ③ 人口の将来展望

- ・希望出生率などに基づく出生数など自然増減を反映
  - ・移住希望などに基づく移動数など社会増減を反映
- ※総合戦略の各種取組みを反映



### 総人口や年齢3区分人口等の将来を展望

※本市の人口の急激な減少を抑え、2060年における人口の安定化、定常化を目指すものとする。

## 5 資料

### ■合計特殊出生率について（県との比較）

	山口県			山口市		
	女性人口 (a)	出生数 (b)	年齢階級別 合計特殊出生率 (b/a)	女性人口 (a)	出生数 (b)	年齢階級別 合計特殊出生率 (b/a)
15～19 歳	32,420	189	0.0291	4,919	19	0.0193
20～24 歳	26,362	1,197	<b>0.2270</b>	4,994	155	0.1552
25～29 歳	31,176	3,334	<b>0.5347</b>	4,962	474	0.4776
30～34 歳	35,957	3,602	0.5009	5,500	563	<b>0.5118</b>
35～39 歳	44,294	2,021	0.2281	6,679	324	<b>0.2426</b>
40～44 歳	47,501	355	0.0374	7,057	47	0.0333
40～44 歳	41,442	6	0.0007	5,940	3	0.0025
合計			<b>1.56</b>	合計		<b>1.44</b>

・出生児数：厚生労働省「人口動態調査」

・女性人口：各年9月末、住民基本台帳人口

※本市は、「30～34 歳」「35～39 歳」における出生率は県を上まわっているものの、「20～24 歳」「25～29 歳」における出生率が県に比べて低いことが、県平均を下回る要因になっている。

■年齢別の純移動者数（社会増減）

純移動数（男女）	5,709	2,211	4,243	3,689	2,738	▲547
----------	-------	-------	-------	-------	-------	------

純移動数・男	1980年→ 1985年	1985年→ 1990年	1990年→ 1995年	1995年→ 2000年	2000年→ 2005年	2005年→ 2010年
純移動総数	3,090	827	1,964	1,763	1,010	▲735
0-4歳→5-9歳	613	273	362	285	228	156
5-9歳→10-14歳	497	147	330	173	74	53
10-14歳→15-19歳	596	575	772	541	623	511
15-19歳→20-24歳	139	29	▲300	▲489	▲324	▲741
20-24歳→25-29歳	▲843	▲1,502	▲1,194	▲660	▲933	▲1,317
25-29歳→30-34歳	654	338	457	507	189	24
30-34歳→35-39歳	555	221	417	333	151	153
35-39歳→40-44歳	335	191	397	315	176	102
40-44歳→45-49歳	216	129	235	64	28	▲17
45-49歳→50-54歳	▲7	28	50	130	88	▲48
50-54歳→55-59歳	45	77	77	93	102	21
55-59歳→60-64歳	82	126	129	178	210	150
60-64歳→65-69歳	40	63	68	91	77	57
65-69歳→70-74歳	61	31	59	80	124	88
70-74歳→75-79歳	47	46	58	82	82	16
75-79歳→80-84歳	43	12	▲4	▲27	52	55
80-84歳→85-89歳	▲5	30	20	37	▲8	12
85歳～→90歳～	23	14	30	30	69	▲7

まち・ひと・しごと創生本部から提供された資料等に基づき山口市推計

純移動数・女	1980年→ 1985年	1985年→ 1990年	1990年→ 1995年	1995年→ 2000年	2000年→ 2005年	2005年→ 2010年
純移動総数	2,619	1,384	2,279	1,925	1,728	187
0-4歳→5-9歳	387	236	322	304	257	82
5-9歳→10-14歳	456	222	352	259	80	83
10-14歳→15-19歳	611	619	852	674	743	806
15-19歳→20-24歳	321	198	120	81	127	▲148
20-24歳→25-29歳	▲752	▲929	▲1,038	▲1,022	▲1,316	▲1,523
25-29歳→30-34歳	407	176	277	415	237	137
30-34歳→35-39歳	502	204	396	337	286	128
35-39歳→40-44歳	326	198	248	134	124	36
40-44歳→45-49歳	12	21	110	60	101	▲4
45-49歳→50-54歳	40	80	89	106	70	19
50-54歳→55-59歳	49	83	80	115	150	103
55-59歳→60-64歳	63	44	86	93	145	98
60-64歳→65-69歳	37	84	29	43	35	52
65-69歳→70-74歳	84	34	79	61	85	19
70-74歳→75-79歳	▲17	▲37	60	26	80	39
75-79歳→80-84歳	61	41	89	53	108	45
80-84歳→85-89歳	27	65	57	42	138	36
85歳～→90歳～	4	46	71	145	277	180

まち・ひと・しごと創生本部から提供された資料等に基づき山口市推計

■山口市の人口動態等について

・市全体の自然増減、社会増減

年次(平成)	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26 ~10月
自然増減	▲42	▲69	▲123	▲182	▲200	▲432	▲376	▲508	▲436	▲348
社会増減	130	327	30	59	535	▲222	318	▲358	132	▲176
人口増減	88	258	▲93	▲123	335	▲654	▲58	▲866	▲304	▲524

住民基本台帳による人口動態

(平成24年7月から外国人住民も住民基本台帳制度の適用対象となっている)

旧阿東町の人口動態は含まれていない(平成17年10月分~平成21年12月分)

・地区別の人口動態

地区	S40	H2	H7	H12	H17	H22	H22/S40 増減率
大殿	16,340	10,266	9,103	8,826	8,059	7,496	▲54.1%
白石	16,583	10,514	10,269	9,399	10,064	9,941	▲40.1%
湯田	12,142	14,025	14,137	13,846	13,430	12,588	3.7%
仁保	4,262	4,104	3,904	3,849	3,721	3,579	▲16.0%
小鯖	3,129	5,067	5,428	5,310	5,066	4,768	52.4%
大内	5,973	15,991	18,341	20,439	21,494	22,158	271.0%
宮野	6,947	13,217	13,851	14,549	15,343	15,509	123.2%
吉敷	3,577	10,602	12,195	13,741	14,494	14,450	304.0%
平川	3,316	14,859	16,307	17,531	19,380	19,479	487.4%
大歳	4,674	9,442	10,745	11,969	12,842	13,036	178.9%
陶	2,815	2,804	2,889	2,772	2,733	2,688	▲4.5%
鑄銭司	3,209	3,773	3,755	3,571	3,369	3,153	▲1.7%
名田島	2,260	1,783	1,689	1,651	1,504	1,410	▲37.6%
秋穂二島	4,040	3,382	3,188	2,999	2,827	2,573	▲36.3%
嘉川	6,877	6,932	7,136	7,130	7,055	6,874	▲0.0%
佐山	2,833	2,700	2,642	2,865	2,876	2,833	0.0%
小郡	15,486	21,772	22,881	23,107	23,009	24,250	56.6%
秋穂	9,611	8,481	8,149	7,941	7,697	7,262	▲24.4%
阿知須	8,197	8,385	8,300	8,823	9,031	9,176	11.9%
徳地	14,193	9,753	9,130	8,375	7,683	6,771	▲52.3%
阿東	15,755	9,941	9,133	8,422	7,620	6,634	▲57.9%
総数	162,219	187,793	193,172	197,115	199,297	196,628	21.2%

国勢調査

■山口市転入、転出の状況（平成22～26年度の平均、小数点第一位を四捨五入）

（資料：住民基本台帳）

・ 県内転入元、県内転出先（市町村別）

	転入元		転出先	
	1	防府市	589人	宇部市
2	宇部市	588人	防府市	608人
3	下関市	491人	下関市	432人
4	周南市	332人	周南市	311人
5	萩市	267人	岩国市	202人

・ 県外転入元、県外転出先（都道府県別）

	転入元		転出先	
	1	広島県	766人	広島県
2	福岡県	514人	福岡県	640人
3	東京都	298人	東京都	362人
4	岡山県	195人	大阪府	249人
5	大阪府	194人	岡山県	216人

・ 転入が多い地域

	県内から転入		県外から転入	
	1	小郡	484人	小郡
2	大内	397人	平川	527人
3	大歳	282人	大歳	323人
4	平川	273人	湯田	312人
5	吉敷	267人	大内	307人

・ 転出が多い地域

	県内へ転出		県外へ転出	
	1	小郡	355人	小郡
2	平川	349人	平川	537人
3	大内	334人	大内	356人
4	吉敷	230人	湯田	351人
5	宮野	230人	大歳	344人

# 「(仮称) 山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」骨子

## 1 将来像

(仮称)「山口に住んでみたい、住み続けたい」と実感できる「定住実現都市」  
※2060年を意識した、H27～31の5年間の計画

## 2 山口市の地方創生に対する考え方(スタンス)

※人口減少に正面から向き合う中で、“山口らしさ”を最大限に発揮

- ・ 個々の優れた都市環境、地域資源がバランスよく、トータルに備わっている本市の魅力や強みを発揮していく。

1000平方キロメートルを超える市域面積から産み出される豊富な水資源や森林資源、県都として蓄積された社会資本や人的資本、広域高速交通網の結節点としての恵まれた地理的条件、歴史・文化芸術に包まれた都市環境、「教育なら山口」といった優れた教育環境、学園都市としての高度な人材育成・学術研究機能など、個々の優れた都市環境、地域資源がバランスよく、トータルに備わっていることが本市の最大の魅力であり強みである。

- ・ 本市が取り組んできた「まち」の基盤づくり、骨格づくりである「広域県央中核都市づくり」と「協働によるまちづくり」は、人口減少対策、定住促進の重要な取り組みになってくることから、継続的にスピード感を持って取り組んでいく。
- ・ 国、県の戦略との連動、近隣市町の持つ機能との連携を図ることで、効果をより高めていく。(「活力ある日本社会の維持、東京一極集中の是正」「活力みなぎる山口県」への貢献)

## 3 将来に向けた基本的な方向

- (1) 出生率の改善、向上
- (2) 定住、移住促進(社会増)
- (3) 生産年齢人口減少への対応
- (4) 人口減少時代にふさわしい都市の基盤、骨格づくり  
(協働によるまちづくり、広域県央中核都市づくり)

※キーワードは 「安心」「活気」「循環」



#### 4 政策目標（成果指標、2020年）

##### 「しごと」と「ひと」の好循環作り

- (1) 若い人たちをターゲットに、山口に”しごと”をつくる
- (2) 山口に新たな”ひと”の流れをつくる
- (3) 若い世代の結婚、出産、子育ての希望に応える環境整備

##### 「好循環を支える、まちの活性化」

- (4) 都市、農山漁村が共生する、地域の特性に応じた生活圏、都市圏の形成

※政策目標の項目は、国、県の戦略と連動することを意識。

人口ビジョンや地域経済分析システムを活用した現状分析

#### 5 施策展開（個別事業の成果指標）

##### (1) 若い人たちをターゲットに、山口に”しごと”をつくる

- ①雇用促進と中小企業振興（起業創業支援、サービス産業の活性化）
- ②観光・交流のまちづくり
- ③農林水産業の経営基盤の強化と担い手の育成 など

##### (2) 山口に新たな”ひと”の流れをつくる

- ①大学等と連携した定着支援、若者、女性、高齢者、留学生の活躍支援
- ②国機関や企業の地方移転の促進（受け皿の整備、誘致活動の強化）
- ③幅広い世代を対象にした移住促進
- ④豊かな感性、まちの価値を育む都市政策 など

##### (3) 若い世代の結婚、出産、子育ての希望に応える環境整備

- ①子育て、子育て環境の整備
- ②子どもの教育環境の充実 ～教育なら山口～ など

##### (4) 都市、農山漁村が共生する、地域の特性に応じた生活圏、都市圏の形成

※都市機能の強化、生活機能の集積、コンパクト化、  
ネットワーク機能（道路、交通、ICT）の強化

- ①協働によるまちづくり  
（日常生活機能の確立、地域自治機能の強化、中山間地域等の活性化 など）
- ②広域県央中核都市づくり  
（山口、小郡の両都市核機能の強化、広域ネットワーク機能の強化 など）
- ③安心、安全に暮らせるまちづくり  
（防災・減災対策、地域包括ケア推進、生活環境の整備 など）

#### 「(仮称)やまぐち地方創生100プロジェクト」

アクションプラン（個別施策工程表）

※新型交付金の活用を意識した様式